

ギニア月報（2025年12月）

主な出来事

【内政】

- 4日、自由ブロック（BL 党）は、選挙副責任者マッサ・ドゥアゴ・ギラヴォギ氏が12月2日夜から3日にかけてマトトで誘拐されたと発表。
- 8日、セルー・ダレンはイエロ・バルデ氏の呼びかけを拒否し、ギニア民主勢力連合（UFDG 党）は、大統領選でいかなる候補も支持しない立場を再確認。
- 11日、UFDG は、8月22日以降、国土行政・地方分権省（MATD）から課されていた90日間の活動停止が正式に終了したと発表。
- 15日、12月28日の大統領選挙に伴い、初等・中等教育および識字教育省は、全国の公私立学校を例外的に閉鎖すると発表。
- 24日、ECOWAS の監視団120人がコナクリに到着。
- 28日、大統領選挙実施。
- 30日、DGE が大統領選挙暫定結果を発表。投票率は 80.95%、ドゥンブヤ暫定大統領が過半数の 86.72%を獲得と発表。

【外交】

- 1日、初等・中等・識字教育省、WFP、日本大使館でボケ州の学校給食視察。

【経済（開発協力含む）】

- 2日、シマンドゥ鉄鉱石を積んだ初の船舶が中国に向けモリバヤ港から出航。
- 10日、巨大プロジェクトの調整等を担う大統領直属の独立機関として、「シマンドゥ 2040 計画実施ユニット」が発足。
- 22日、ギニア政府は、2026年11月11日に「シマンドゥ・マイニング・サミット（SMS）」を開催することを発表。

1 内政

- ・ 2日、ドゥンブヤ暫定大統領が大統領選挙前に、平和と安定を統治の中心に据える将来のギニアのビジョンを表明。
- ・ 3日、選挙総局（DGE）が、大統領選挙に向けて啓発活動に取り組む市民団体に対し小切手を交付。
- ・ 4日、自由ブロック（BL 党）は、選挙副責任者マッサ・ドゥアゴ・ギラヴォギ氏が12月2日夜から3日にかけてマトトで誘拐されたと発表。
- ・ 8日、全国教育組合（SNE）と教育職業労働組合連盟（ESPE）のストライキの

呼びかけを受け、生徒らがコナクリ、コサ地区でデモを実施し、治安部隊も介入。また、教員によるストライキが行われる中、ボケ市では公立学校の生徒が私立学校を襲撃し、複数人が負傷。

- ・ 8 日、セルー・ダレンはイエロ・バルデ氏の呼びかけを拒否し、ギニア民主勢力連合(UFDG 党)は、大統領選でいかなる候補も支持しない立場を再確認。
- ・ 9 日、ファス・テア漁業・海洋経済大臣は、ボファ県の複数の漁港を訪問。インフラ不足などの課題を聴取し、船外機 4 基を提供した。
- ・ 11 日、UFDG は、8 月 22 日以降、国土行政・地方分権省 (MATD) から課されていた 90 日間の活動停止が正式に終了したと発表。
- ・ 11 日、DGE は、新選挙法により、候補者への公的助成金は政治的規模に関係なく均等配分されると説明。
- ・ 12 日、DGE の法務顧問は、次期選挙を見据え在外ギニア人を対象とした電子投票の試験的導入や在外ギニア人の国会議員立候補等の改革を含めた選挙法の改正を実施したと発表。
- ・ 15 日、12 月 28 日の大統領選挙に伴い、初等・中等教育および識字教育省は、全国の公私立学校を例外的に閉鎖すると発表。
- ・ 15 日、DGE は全国への選挙資材輸送を開始。
- ・ 16 日、ミリムノ候補は、ピタでの選挙運動への妨害を非難し、選挙からの撤退の可能性を示した。
- ・ 24 日、ECOWAS の監視団 120 人がコナクリに到着。
- ・ 24 日、DGE は全国に配置される認定を受けた選挙監視員向けの説明会を実施。
- ・ 26 日、MODEL 党首のアリウ・バー氏逮捕から 1 年が経過し、弁護団が釈放を要求。
- ・ 28 日、大統領選挙実施。
- ・ 30 日、DGE が大統領選挙暫定結果を発表。投票率は 80.95%、ドゥンブヤ暫定大統領が過半数の 86.72% を獲得と発表。

2 外交

- ・ 1 日、初等・中等・識字教育省、WFP、日本大使館でボケ州の学校給食視察。
- ・ 9 日、マリ首相がコナクリ訪問し、バー首相を会談。二国間協力や地域安全保障について協議。
- ・ 14 日、第 68 回 ECOWAS 首脳会議において、ECOWAS 委員会は、選挙監視団の派遣を通じて支援を継続するよう指示された。

3 経済（経済協力含む）

- ・ 1 日、高地ギニアで、違法金採掘の被害が発生。
- ・ 2 日、シマンドゥ鉄鉱石を積んだ初の船舶が中国に向けモリバヤ港から出航。
- ・ 10 日、若者の起業促進を目的とした第 1 回 FONIJ グランプリの決勝が開催。
- ・ 10 日、巨大プロジェクトの調整等を担う大統領直属の独立機関として、「シマンドゥ 2040 計画実施ユニット」が発足。
- ・ 12 日、大統領府はボケ県における新たなアルミナ精錬所建設計画を発表。
- ・ 13 日、創業からわずか 100 日で、ニンバ・マイニング・カンパニー (NMC) は、初のボーキサイト輸送列車がカムサール鉱石港に到着したと発表。
- ・ 14 日、ロベックス社は、高地ギニア、キニエロの金鉱プロジェクトに関し、初の鉱石搬入を発表。2025 年末までに初回の金精錬を予定。
- ・ 18 日、畜産大臣が、ゼコレ地方に放牧区 3000 ヘクタールを整備すると発表。
- ・ 22 日、ギニア政府は、2026 年 11 月 11 日に「シマンドゥ・マイニング・サミット (SMS)」を開催することを発表。

(了)